

向社会性及国際性視点に立った 森林経営の方向(森林認証との関連)

2004年4月3日
日本林学会大会森林認証シンポジウム
(財)林政総合調査研究所理事長
小澤 普照

4/20/2004

1

1)向社会的な森林経営とは何か

- 現代社会では森林の存在そのものが公益性をもっているということが共通認識。
- 林業活動を含む森林経営が、森林の公益性を損なわずに行うことが求められている。
- 地球サミット(1992年)以降、持続可能な森林経営がキーワードとなる。
- 予定調和ではなく、より向社会的な経営が求められている。
- 原則声明 森林資源および林地は、現在および将来の世代の社会的、経済的、生態学的、文化的、精神的な人類の必要を満たすために持続的に経営されるべきである。
 - 向社会性とは利他的な行動などを意味する心理学用語。

4/20/2004

2

向社会性とは

「向社会性」という言葉は、「社会の役に立つ」「社会のために前向きに」という意味の心理学用語で、英語のProsocial の訳語です。社会のために役に立ちたい、困っている人の助けになりたい、援助をしたい、困っている人と悩みや苦しみを共有したい、そういう私たち人間の気持や行動を総称して、向社会的行動Prosocial Behaviorと呼ばれています。個人のボランティア行動なども向社会的活動ですし、企業の社会貢献や環境対応なども 向社会的企業活動といわれています。(向社会性研究所)

4/20/2004

3

2)森林経営における国際性の方向は

- 森林の機能は、温暖化問題を含め近年国境を越えて作用するようになった。
- したがって、各国の主権は認めながらも、森林の持続経営には、国境を越えた責任を課することになった。
- このことは、国際的な共通認識と連携のもとに森林経営が行われるべきものであることを意味している。

4/20/2004

4

モデルフォレストに見る国際ネットワークの動き

- モデルフォレストの活動が世界の各国(各地)に広がっている
- 既導入国は、カナダ、米国、ロシア、メキシコ、ドミニカ、コスタリカ、アルゼンチン、チリ、中国、インドネシア、タイ
- 今後、スウェーデン、ホンジュラス、フランス、インド、ノルウェー、フィンランドなどに導入が予想される
- FAO、UNDP、CIFOR、ITTOなどによる支援
- 期待されることは、持続可能な森林経営についての地域参加による進展が国際的にレベルアップすること
- モデルフォレスト相互の交流により、人材育成等に貢献する

4/20/2004

5

3) 森林認証における向社会性と国際性

- 森林認証は、地球サミット以降、持続可能な森林経営の一翼を担う形で世界各国において広がりをみせてきている。
- 森林認証が、社会の信頼度を得て発展し、持続可能な森林経営に寄与し、一国の林業活動が社会的な支持および国際的な支持を得ながら行われるために、その向社会性と国際性を保つことが必要と考える。

4/20/2004

6

4) 世界の潮流から見た認証のあり方

- 認証が国境を越えて森林の持続に影響力を及ぼすためには、なるべく広域にわたる認証が効果的と考えられる。
- 一方、森林はその存在する地域の気候的な影響、社会的基盤、林業の伝統等の諸条件を考慮すると地域性に配慮した認証基準を定めることが妥当と考えられる。
- この場合、北中南米、ヨーロッパ、アジアなどのブロック認証システムの発展可能性が予想される。一方、汎世界型で地域を単位とする認証を行う方式も考えられる。
- またISO認証の中で対応していくケースも考えられる。
- 日本型認証とは何か。
- 人工林・傾斜地・小規模森林などの特性に対応する認証というように具体化すべきである。国際性につながる。

4/20/2004

7

5) 森林認証に期待されるもの

- 林業はもともと環境に優しい産業であるというような意識に安住してはならない。
- 経営理念として地球環境対応を追求する。
- 社会の要請に徹底的に対応する。
- あるいはまた温暖化など関連して発生すると予測される事態に備えリスクマネジメントを講じる。
- などの明確な経営理念が森林経営の場で生じることが期待される。
- 経営理念を共有することが重要である。
- 認証経営体相互のネットワークが形成されるなどの新たな場面が出現することによって地域材活用などの進展も期待される。

4/20/2004

8

リスクマネジメントについて

□ リスクコミュニケーションとは

- 消費者等に対する情報提供
- 危機対応準備及び発生時の対応
- リスクアナリシス
- 合意形成

などからなる。

4/20/2004

9

森林経営のリスクマネジメント

- 急激な気象変動としての暴風等の発生、病虫害、森林火災、酸性雨被害などが増加している。

これらにどのように対応するか。

- ドイツにおける暴風被害対策(経常伐採の圧縮など)
- 病虫害対策としての森林多様性への配慮
- 森林経営者の日常対応と危機時対応

4/20/2004

10

これからの森林経営哲学

- 森林経営の三位一体論
- 森づくり 森守り 森活かし
- 山 里 都市のネットワーク
- 森林愛フォレストネットワークの発進

4/20/2004

11